

環境経営レポート

対象期間：2021年5月～2022年4月



発行日：2022年6月28日



株式会社 KODAI



®環境省

エコアクション21
認証番号0006914

目 次

1. 組織の概要(Plan)
2. 環境経営方針(Plan)
3. 環境経営組織表(Do)
4. 環境経営目標(Plan)
5. 環境経営計画(Plan)
6. 環境経営目標に対する実績の評価(Check)
7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容(Check)
8. 環境関連法への違反、訴訟等の有無(Check)
9. 代表者による全体の評価と見直し(Action)

1. 組織の概要

(1) 事業所及び代表者

株式会社 KODAI 代表取締役 小鯛 信之

(2) 所在地(記載の全事業所が認証・登録範囲)

本社・工場 〒673-0514 兵庫県三木市志染町戸田1838-268
加古川工場 〒675-0113 兵庫県加古川市平岡町中野288-1

2021年5月より本社機能を加古川工場から三木工場へ変更

(3) 環境経営管理責任者及び担当者

環境経営管理責任者(統括):田中 祥之 (常務執行役員)
連絡先:本社工場 TEL 0794-87-0340 FAX 0794-87-0341

本社・工場担当者:田中 祥之 (本社・工場 工場長)*兼任
連絡先:本社工場 TEL 0794-87-0340 FAX 0794-87-0341

加古川工場担当者:本田 英之 (加古川工場 工場長)
連絡先:加古川工場 TEL 079-435-0336 FAX 079-437-4108

(4) 事業内容

建設機械足回り部品の溶接、機械加工及び組立・塗装
シールド掘削機部品の溶接、機械加工及び組立・塗装
産業用ロボット部品の機械加工

(5) 設立

1962年

(6) 事業所の規模

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
資本金	1500万円	←	←	←	←	←	←	←
売上高	56億円	41億円	47億円	59億円	62億円	51億円	40億円	57億円
従業員数	134人	118人	121人	135人	135人	136人	132人	132人
敷地面積								
加古川工場	17181m ²	←	←	←	←	←	←	←
本社工場	17000m ²	←	←	←	←	←	←	←

注1) 事業年度:5月～翌年4月

注2) 2011年度から三木工場稼働、2019年度に三木第二工場完成

注3) 従業員数は期初の値を示すので、最新の値とは一致しない。

(7) 許認可事項

無し

(8) 認証・登録範囲

建設機械部品・産業用ロボット部品の製造

2. 環境経営方針

株式会社 KODAI

環境経営方針

〈環境理念〉

当社は、建設機械部品の溶接・機械加工・組立や産業用ロボット部品の機械加工の事業活動を継続的に続けていくにあたり、「お客様に満足して頂ける製品を創ろう」を合言葉にしています。地球環境保全のために、事業活動に伴う製品サービスに関する環境経営を継続的に推進し、企業の社会的責任として積極的に自然との調和を考え、健全な環境保全活動に取り組めます。

製品に対する要求が例年厳しくなっていく中、人材不足の課題に直面しています。更なる自動化設備の導入を進め、効率化を推進し課題解消を目指します。また新工場の完成により、新たな事業への展開も行っていきます。

〈行動方針〉

当社は、建設機械部品の溶接・機械加工・組立や産業用ロボット部品の機械加工の事業活動を通じて、以下の項目を取組むことを宣言します。

1. 環境関連法規・条例・規則等を特定し遵守します。
2. 環境経営目標を定め、その目標を達成する為に全社一丸となって取組み、目標は定期的に見直して、環境経営の継続的な改善に努めます。
3. 環境教育を実施し、全従業員に対して環境意識の大切さを認識させます。
4. 環境負荷を改善する為に次の事項を重点的に取組みます。
 - (1) 化石燃料の削減(CO₂排出量の削減)
 - (2) 水使用量の削減
 - (3) 廃棄物の分別の徹底と排出量の削減
 - (4) 電力使用量の削減(CO₂排出量の削減)
 - (5) 化学物質使用量の削減
 - (6) 仕掛在庫の削減
 - (7) 不適合品の低減
 - (8) グリーン購入
 - (9) 製品への環境配慮
(自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目)
5. この方針について全従業員に周知すると共に、環境への取組みを環境経営レポートとして取り纏め、必要な情報を社会にも公表します。

制定 2013年5月7日

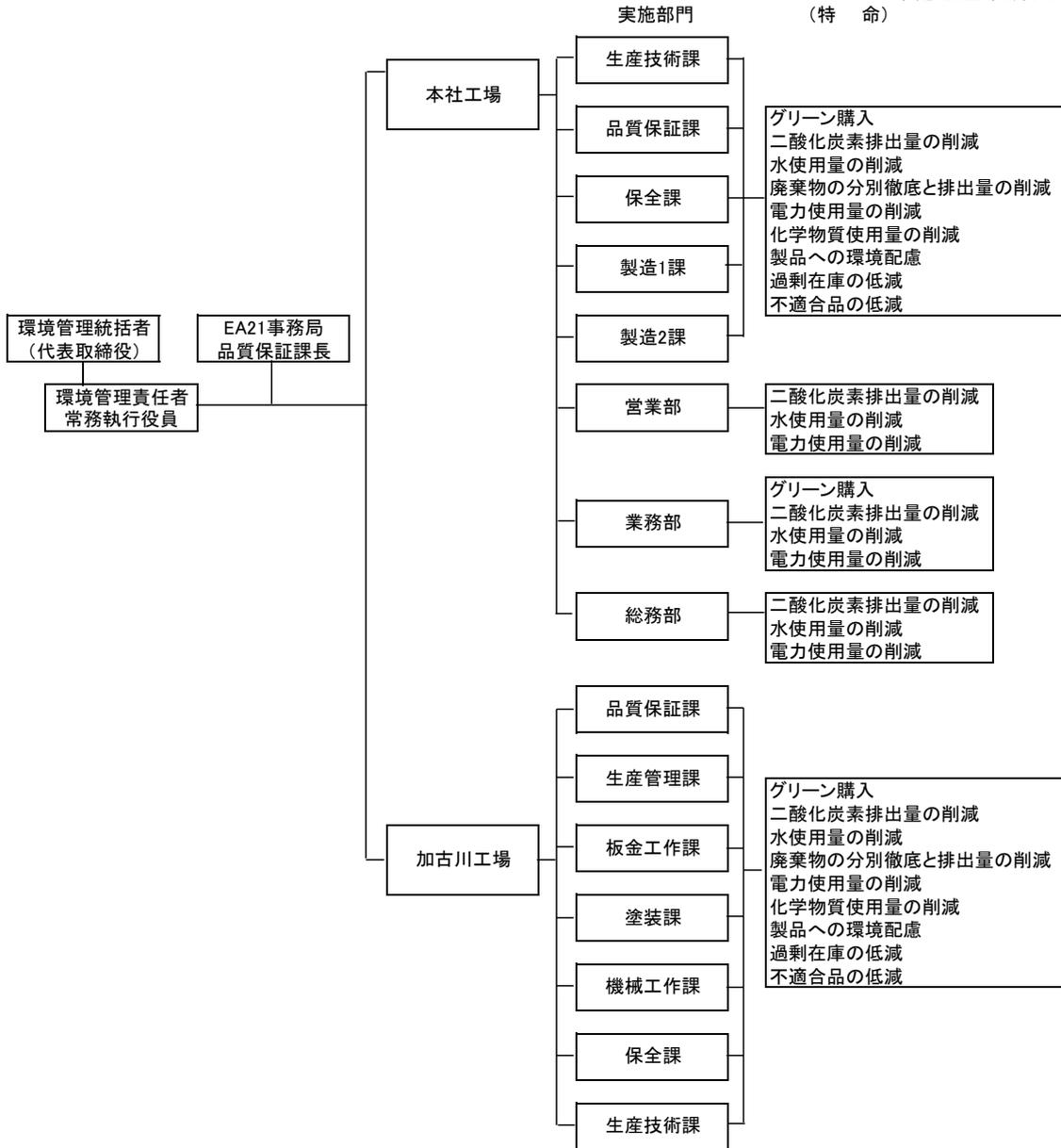
改正 2021年5月1日

株式会社 KODAI
代表取締役 小鯛 信之

3. 環境経営組織表

EA21 環境経営組織表

制定：2010年5月7日
改定：2022年5月9日



職位	役割・責任	権限
環境管理統括者 (代表取締役)	①EA21の最高責任者 ②環境経営方針の制定 ③EA21システムの承認 ④EA21の経営資源の確保 ⑤環境管理責任者の任命 ⑥EA21全体の評価と見直し	EA21の確立・実行・維持・改善に関する 全権限
環境管理責任者	①経営者の代行 ②EA21のシステムの確立・実施・維持・改善 ③保管フロンの管理責任者	EA21の確立・実施・維持・改善に関する 指示の権限
EA21 事務局	①法規制等の把握及び監視測定、届出等、 法規制等の全て ②EA21マニュアルの見直し・改定 ③環境経営レポートの作成 ④環境経営計画の実績把握 ⑤教育・訓練の実施及び記録 ⑥その他環境管理責任者の支援	環境管理責任者の指示により、左記に 関する事項の全部門に展開する権限
EA21部門責任者 (各部門長)*	①部門のEA21に関する業務を確立・実行・ 維持・特命事項	左記の事項に関し部署内従業員に対し 指示、フォローする責任と権限
社員	手順・ルールを遵守する責任・特命事項	—
共通	①環境改善の提案 ②当該環境改善の実施	—
製造会議	毎月1回開催し、目標の達成状況及び 活動計画の実行状況を審議	環境コミュニケーション 情報伝達

4. 環境経営目標

1) 中期環境目標(本社工場・加古川工場)

環境経営目標(自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する取組)

項目	年度	基準年度	目標				
		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
		2019年比>>>>	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	△2.5%
売上高 (100万円あたりに換算)	100万円	5148					
二酸化炭素	kg-CO ₂ /原単位	486	483.57	481.14	478.71	476.28	473.85
一般廃棄物	kg/原単位	2.7	2.69	2.67	2.66	2.65	2.63
産業廃棄物	t/原単位	0.0724	0.0720	0.0717	0.0713	0.0710	0.0706
水使用量	m ³ /原単位	0.688	0.685	0.681	0.678	0.674	0.671
化学物質使用量	kg/原単位	9.98	9.93	9.88	9.83	9.78	9.73
購入電力	kg-CO ₂ /原単位	454.29	452.02	449.75	447.48	445.20	442.93
化石燃料	kg-CO ₂ /原単位	24	23.88	23.76	23.64	23.52	23.40
物質使用量	t/原単位	3.15	5.88	5.85	5.82	5.79	5.76
製品生産量	t/原単位	3.11	5.83	5.80	5.77	5.74	5.71

黄色塗りが基準値

↑基準年度

自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目(部品の製造のため)はないので、数値目標は設定せず行動目標とする。

グリーン購入は毎年一品目増やすことを目標にする。

注1)削減率は2019年比としているが、基準年度は5月から4月までの実績値で算出している。

注2)フロン保有量/原単位は、売上げに左右されて達成度が大きく変わってしまうので、フロン保有量の調査は毎年行うが環境経営目標より今期から削除する。

注3)物質使用量は、金属(鉄)、溶接ワイヤ、切削液、潤滑油、防錆油、紙をいう。

注4)物質使用量、製品生産量は、2020年に海外出荷分を含んでかなり増加したことを受け、基準年度を2020年度としている。従い、削減比率は表とは合っていない。

注5)電力によるCO₂排出係数は、0.585kg-CO₂/kWhを使用している。

2) 2022年度の目標設定

2022年度は、2021年度の結果を基本として見直しをかけることとする。

5. 環境経営計画

主な環境活動取組内容

No.	取り組み項目	活動計画実施の内容
1	電力量の削減	1. 空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃) 2. 持ち場離れ時の節電励行の呼掛け 3. 空調フィルターの定期清掃 4. 休憩時間の消灯徹底 5. 残業時間削減の取組み推進 6. 使用電力量の公表・掲示
2	化石燃料の削減	1. エコ運転励行の呼掛け 2. 燃料記録徹底と公表 3. アイドリングに関する取り決め 4. 車両の点検励行(定期・始業)及び記録
3	一般廃棄物の削減	1. ゴミ分別の徹底(分類及び場所の指定) 2. ミスコピー防止啓発、裏紙の再利用の徹底 3. 多量コピーの削減検討、ペーパーレス会議の推進 4. 段ボール、雑古紙の無料回収推進
4	産業廃棄物の削減	1. 分類及び場所の指定 2. 廃棄物処理量の社内公表 3. 年間を通じての啓蒙活動 4. 作業ミスによる不適合品増加の抑制 5. 切削液や洗浄、化成処理液の濃度管理による排出量の削減
5	水道水の削減	1. 節水励行の呼掛け 2. 車両洗車の適正化 3. 切削液や洗浄、化成処理液の濃度管理による使用量の削減
6	化学物質使用量削減	1. 塗料膜厚の徹底管理 2. 化成処理工程の条件管理 3. 作業ミスによる使用量増加の抑制 4. 主要物質使用量の監視
7	グリーン購入	1. 事務用品での購入推進 2. コピー再生紙の利用
8	環境に配慮した生産活動	1. 朝のミーティングにて不良発生 の周知と注意掛け 2. 不適合品伝票を利用し、原因追究、対策を実施し再発を歯止め 3. 月1回品質会議を行い、品質改善活動による品質向上 4. 関連工程リードタイムの確認と見直し 5. 月末在庫カウントし、数量調整 6. 外注会社と連携し、委託工程の工数短縮検討 7. 会社敷地の清掃活動(毎週水曜日に実施) 8. 環境測定実施(粉じん、特定化学物質、有機溶剤) 9. 環境測定実施(振動、騒音) 10. 環境測定実施(排ガスVOC)

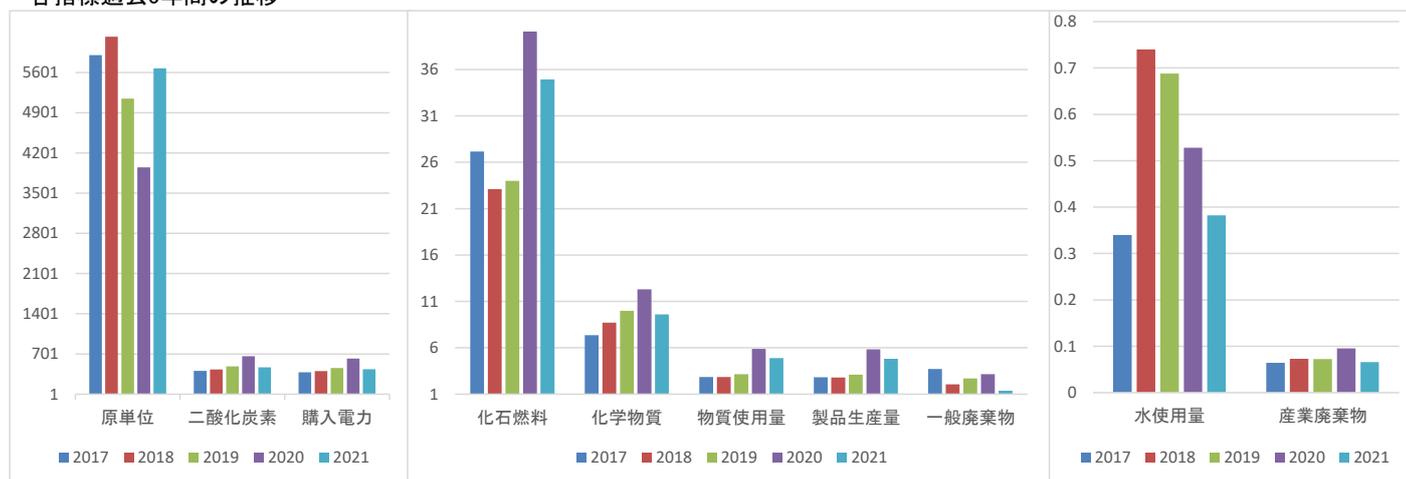
6. 環境経営目標に対する実績の評価

2021年度(2021年5月～2022年4月)の結果、年度目標(2021年5月～2022年4月)に対する達成度

No.	項目	単位	2021年度 2021.5～ 2022.4	2020年度 2020.5～ 2021.4	2019年度 2019.5～ 2020.4	2018年度 2018.5～ 2019.4	2017年度 2017.5～ 2018.4	前回達成 度%(結 果/目標)	今回達成 度%(結 果/目標)	前回 評価 (○/×)	今回 評価 (○/×)	今年度 目標値
1	原単位	100万円	5676	3948	5148	6224	5906					
2	二酸化炭素	Kg-CO ₂ /原単位	469	662	486	431	407	155	97	×	○	481
3	一般廃棄物	kg/原単位	1.37	3.15	2.70	2.06	3.71	154	51	×	○	2.67
4	産業廃棄物	T/原単位	0.0657	0.0954	0.0724	0.0731	0.0642	132	92	×	○	0.0717
5	水使用量	m ³ /原単位	0.382	0.528	0.688	0.740	0.340	72	56	○	○	0.681
6	化学物質使用量	kg/原単位	9.88	12.30	9.98	8.71	7.37	143	100	×	○	9.88
7	購入電力	Kg-CO ₂ /原単位	434.37	619.66	454.29	401.83	383.40	156	97	×	○	449.75
8	化石燃料	Kg-CO ₂ /原単位	34.93	42.75	24.00	23.10	27.15	187	147	×	×	23.76
9	物質使用量	t/原単位	4.88	5.88	3.15	2.85	2.86	208	83	×	○	5.85
10	製品生産量	t/原単位	4.80	5.83	3.11	2.80	2.82	210	83	×	○	5.80

注:2021年度二酸化炭素総量:2663768.37Kg-CO₂

各指標過去5年間の推移



7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

- 2021年度は2019年度と2020年度の各指標を基準にして評価している。
2021年7月に材料遅延と落雷の影響で減産、またエンジンと半導体の供給量不足もあっての生産減もあり当初立てた売上げ計画に対してかなりのマイナスとなった。昨今のコロナの影響も生産にかなり影響している。今期については、化石燃料以外は目標をクリアすることが出来た。
- 二酸化炭素排出量は目標をクリアすることが出来た。メイン製品の売上げは増加したが、増えたのが中型機種でなく大型機種の為にそこまでの数量増にならず溶接量が増えなかったことが達成の要因と考える。次年度も在庫の適正化を行い、加工時間や溶接時間の短縮、夜間無人加工のアイテム増加、作業の効率化を行い、仕事量に見合った残業時間の短縮や休日出勤を出来るだけ抑えていく。
- 購入電力に関しては目標値をクリアすることが出来た。無駄な残業を控え適切な勤怠管理が出来た事が達成の要因と考える。現状電気代がかなり高くなってきている状況なので、持ち場離れ時の消灯の徹底、コンプレッサを停止させる、無駄な残業を減らすよう推進していく。LED照明への入れ替えも今後検討する。
- 化石燃料については、本社工場へ主要製品の生産拠点が変更になったことを受け、加古川・本社間のスポット輸送などが増え購入量が増加、また生産量の増加に伴い製品の出荷に使用するパレットが無いため、パレットのみの引取りを実施していることも購入量の増加に繋がっている。その為に今期の目標をクリアすることは出来なかった。今期の結果を受けて次年度は目標の見直しを行う。
- 一般廃棄物排出量については、目標を大きくクリアすることが出来た。本社工場の方でも加古川工場と同様にゴミの分別を行うようになったことで、一般廃棄物量が大幅に減少した。来期は今期の結果を基に見直しを行う。
- 産業廃棄物排出量については、目標をクリアすることが出来た。塗装量の減少に伴い、廃液等の回収量が減少したことが達成の要因と考える。塗装系以外の産業廃棄物については本社工場のゴミの分別開始に伴い増加している。来期は海外からの輸入品の減少に伴い木箱処理が大幅に削減する見込み。
- 今年度の水使用量は目標を達成出来ている。秋に海外出荷品のフェーズアウトもあり設備の稼働がかなり落ちたこと、塗装数量の減少が達成の要因と考える。来期はそれも踏まえ目標値の見直しを行う。
- 化学物質使用量は目標値をクリアする結果となった。生産量は増えているが、海外出荷品が秋にフェーズアウトしたこと、塗装の膜厚基準が低くなったことが達成の要因と考える。そういったことから来期の目標値についても見直す必要はあるが、適正な塗膜を維持管理し削減に取り組んでいく。
- 物質使用量・製品生産量に関しては、今年度は目標値をクリアすることが出来た。生産量は前年度より約2割増加だったが、大型機種での売上げが増加したことが達成の要因と考える。
- 今期も不安定な状況下にあると思われるが、2021年度の環境経営を継続する。

8. 環境関連法への違反、訴訟等の有無

1) 法的遵守義務を受ける主な環境関連法は次の通りである

法規名	実施事項	改正年月日	レビュー実施日	遵守状況
グリーン購入法(法律第100号)	グリーン購入法適合品購入の推進	2021.5.19	2022.2.2	○
廃棄物処理法(法律第137号)	事業者の産業廃棄物の処理・保管、マニフェストの管理	2019.6.14	2022.2.2	○
騒音規制法(法律第98号)	環境測定(第三者により年1回)	2014.6.18	2022.2.2	○
振動規制法(法律第64号)	環境測定(第三者により年1回)	2014.6.18	2022.2.2	○
化審法(法律第117号)	特定の化学物質使用量の把握	2019.12.4	2022.2.2	○
フロン排出抑制法(法律第64号)	業務用冷凍空調機器等の定期点検	2019.6.14	2022.2.2	○
PRTR法(法律第86号)	特定の化学物質の排出量等の把握と届出	2002.12.13	2022.2.2	○
水質汚濁防止法(法律第138号)	各種廃液により水路汚染の防止、自主管理	2017.6.2	2022.2.2	○
大気汚染防止法(法律第97号)	ばい煙発生施設の設置届	2020.6.5	2022.2.2	○
悪臭防止法(法律第91号)	塗装排気、切削油の腐敗防止	2011.12.14	2022.2.2	○
労働安全衛生法(法律第57号)	労働災害防止、安全衛生管理	2019.6.14	2022.2.2	○
消防法(法律第186号)	消防訓練、消火器の点検	2021.5.19	2022.2.2	○
高圧ガス保安法(法律第204号)	高圧ガス容器扱い	2019.6.14	2022.2.2	○
毒物及び劇物取締法(法律第303号)	少量硝酸の扱いについて	2018.6.27	2022.2.2	○
兵庫県環境保全条例(条例第28号)	規制基準の設定、規制基準(排出基準・設備基準)の遵守	2019.10.7	2022.2.2	○
環境基本法(法律第91号)	事業者の責務	2021.5.19	2022.2.2	○
循環型社会形成推進基本法(法律第110号)	事業者の責務	2012.6.27	2022.2.2	○
加古川市環境基本法令(条例第1号)	事業者の責務	2000.3.30	2022.2.2	○
三木市環境基本条例(条例第2号)	事業者の責務	2000.3.29	2022.2.2	○

2) 違反・訴訟等

環境関連法規の遵守状況を確認した結果、過去3年間違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘や、利害関係者からの訴訟や苦情もありませんでした。

環境法令リストを作成し、適用条項の内容の改廃を毎年フォローしている。

9. 代表者による全体の評価と見直し

代表者による全体の評価と見直し	
実施日	2022年6月24日(金) 11:00~11:30
場所	本社3F会議室
出席者	小鯛社長、永松専務、田中常務、本田執行役員、小林副工場長
使用した資料	環境経営関係資料
評価	<p>昨年度は、コロナ禍で部品調達の問題、他メーカーでのキャパオーバーなどがあって生産が落ち込み厳しい一年ではあったが、目標をクリア出来たことは評価する。今年度は生産の方もかなり上がり忙しくなるが、目標を達成出来るよう全社で取り組んで欲しい。</p> <p>皆さんも知っていると思うが、電気代が非常に高騰し問題になっています。今まで以上に節電に取り組み電力負荷を下げるよう各課長に申し伝えて下さい。特にコンプレッサなど常に動いていることが無いよう休日は止めるなどの対応もお願いします。</p> <p>前年度は化石燃料以外は目標を達成することが出来たが、小さなことでも積み重ねが大事なので、これからも目標達成に向けて社員一丸で取り組んで下さい。</p>
見直し	<p>客先によって生産数量の増減があります。設備負荷の高い製品は違う設備に振り、また工場間で無駄な輸送が発生していれば見直すなどしてなるべく無駄な経費を削減する様にして下さい。加工治具を増やすなどして、夜間の稼働時間を上げることも重要です。</p> <p>今期も部品が入らないなどで急遽生産減になることも想定されます。急な変動でどうしても材料手配を止めれないのは仕方がないですが、無駄に多く在庫を持つことは止めて下さい。中国工場からの製品輸入の件も当初の計画よりかなり遅れているので至急実現させること。それを実現させることで色々な環境負荷を下げる事が出来ます。</p> <p>今期も、環境経営方針、環境経営目標、実施体制は引き続きこのままで進める。</p>
指示事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 勤怠管理の強化 ② 省人化・無人化の促進 ③ 在庫の削減(適正在庫の再設定) ④ 板金製品の中国からの輸入促進 ⑤ 乖離のある項目について目標値の見直し ⑥ LED照明への入れ替え検討 ⑦ 建屋空調機の更新検討
<p>2022年6月24日</p> <p>株式会社 KODAI 代表取締役 小鯛 信之</p>	